

した。

英世のアメリカでの最初の仕事は、毒蛇の飼育<sup>しいく</sup>で、手当はハドルでした。しかし、毒蛇から毒を取りだすことは、大変危険な仕事です。この蛇<sup>へび</sup>にかみつかれると、まず命がないといわれています。英世は、不自由な手にもかかわらず実に器用に毒をとるのです。こうして、毒物学<sup>どくぶつがく</sup>の研究、蛇の毒の研究にうちこんでいきました。

やがて、フレクスナー教授のもとで、蛇の毒の研究を学界<sup>がっかい</sup>に発表しました。英世が二十五歳、アメリカにきてから十一カ月のことでした。

こうして、英世は、つきつきと研究論文を発表し、その研究は、世界の医学界の人々の注目を集め、ついに、ロックフェラー医学研究所の研究員になりました。ここの研究員は、みんなすぐれた医学者で、所長はフレクスナー博士でした。